CPRの実施を促すために、成人と同様にCPRは胸骨圧迫から開始する

心停止を判断するための脈拍の確認は信頼性がないことが明らかになった

小児用AEDパッド(小児用パッド)の使用対象を乳児まで拡大

小児用パッドの使用年齢の上限を未就学児(およそ6歳)までとした

呼吸の確認に10秒以上かけないようにする

死戦期呼吸は心停止のサインであり「呼吸なし」と同じ扱いである

まず気道確保を行った上で呼吸の観察を行う

CPRに熟練していない救助者は、心停止確認のために脈拍の触知を行わなくてもよい

胸骨圧迫部位は

胸骨の下半分とする

小児・乳児に対する胸骨圧迫の深さは、胸の厚さの約1/3とする

1分間当たり少なくとも100回のテンポで行う

人工呼吸は約1秒かけて行う。送気する量(1回換気量)の目安は傷病者の胸が上がることが確認できる程度

頸椎損傷が疑われる傷病者に対応する場合には下顎挙上法を第一選択

2人の救助者がCPRを行う場合は、胸骨圧迫と人工呼吸の比は15:2

救助者が1人の場合は、成人と同様に、胸骨圧迫と人工呼吸の比を30:2

除細動器が到着するまでは、医療従事者であっても脈拍をチェックすることなくCPRを続ける

小児用パッドがないなどやむを得ない場合、成人用パッドを代用する。ただし、やむを得ず成人用パッドを使用するさいには、パッド同士が重なり合わないように注意する。

電気ショックを1回実施したら、直ちに胸骨圧迫からCPRを2分間行う

小児の場合は頸動脈か大腿動脈、乳児の場合は上腕動脈で確認する

明らかにROSCと判断できる反応(正常な呼吸や目的のある仕草)が出現しない限り、CPRを中断してはならない